

プロの仕事の先には・・・

1月17日に酒田市総合文化センターにてローターアクトウィンター交流会が行われ参加させてもらった。ラーニングセミナーの内容はまさに「職業奉仕」。伊藤三之バスターの熱いセミナーを受け、その後にグループワークが行われた。

ロータリーに入会し、「職業奉仕」というと本当に難しい分野であり、私も少なからず苦手意識があった。なぜならば、「これ！」と一言で言い表すことができないということと、コンテンツが木の葉や根のようにたくさんあるからではないかと思う。

伊藤バスターは、2800地区各クラブにご自身の体験談をもとに「それぞれの職業奉仕物語」という作文の宿題を与えてくださった。アクトのラーニングセミナーの資料には伊藤バスターが書いた8つの職業奉仕物語が添付されていた。セミナーでの講話をお聞きした後、それらの作文を読んでいて思ったことがあったので、グループワークで悩んでいる3人のローターアクトに対して発言させてもらった。

「職業奉仕には正解も不正解もないし、ロータリアンだけが行っているわけでもない。当たり前そこら辺中にあることなんじゃないかなあ」。もちろん私が言ったこの発言も正解でも不正解でもない。もしかしたら諸先輩たちから、バスターノミーという立場であるのになんだ、その発言は！！とお叱りを受けるかもしれないが、セミナーが終わり再度考えてみた。

すべての職業は業種にかかわらず、必ず人と関わり、そして誰かの役にたっている。その関わる最終形に「人の笑顔」が生まれるのではないか、それを目指して一生懸命業務を全うすることが職業奉仕ではないか、と。

弊社は大型車にて関東関西圏に食品輸送を行っている。直接手に取る人の顔は見えないが、生産者さんやそれを受け取り美味しいという消費者さんのもとへ運ぶのが使命である。直接感謝されたことはあまりないが、我々運送業がいなければ人々の生活は成り立たない。だからこそ、この職業に誇りをもって仕事にあたっているし、我々の輸送の後にある消費者の安心した生活、笑顔のために私たちの運送業という職業はあり、職員にも業界の誇りや想いを伝えている。

コロナ禍で日本中が止まりかけた時も、我々運送業（特に食品輸送）は動き続けた。「ソーシャルワーカー」などと格好いい名前もつけていただいた。かたや「ウィルスを運ぶな」と酷いことを言われたこともあったが、弊社のドライバーは、誰一人、運行に出たくありません、とは言わなかった。むしろちょっとカッコ良くさえ見えたものだ。

運送業の長として、ロータリアンとして、誇りをもって職業を通じ社会に奉仕し続けよう。地味だけど、誰かの「笑顔」、「幸せ」のために。

今日も私はドライバーたちに言い続ける。「行ってらっしゃい、安全にね」。